

## 令和3年度「JOC国際人養成アカデミー（JISLA）」開催要項

1. 趣 旨 本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業である。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成を目指す。
2. 事業名 JOC国際人養成アカデミー（JOC International Sports Leader Academy / JISLA）
3. 主 催 公益財団法人日本オリンピック委員会
4. 後 援 スポーツ庁
5. 受講者 (1) 本会加盟団体から推薦される下記の者  
将来、所属団体を代表して IOC、OCA、IF/AF 等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルール、医事、コーチング、マーケティング等）、事務局員または国際競技大会のディレクターを目指し、その団体や組織の政策決定過程に関わることの具体的な計画がある者、あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。  
(2) その他本会が認めた者
6. 受講要件 (1) 受講者を推薦する団体は、当該団体の IF/AF ポジション獲得計画を含む国際戦略、及び推薦される受講者がその国際戦略にどのように位置づいているかのプランを策定してあること。策定されたプランは、別添様式にて提出しなくてはならない。  
(2) 英語力はおおむね CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）B1 レベル以上の者。\*「13. 受講者、受講推薦者に理解いただきたいこと」も参照のこと  
(3) パワーポイント等のプレゼンテーションツールで資料作成が可能な者。  
(4) 受講にあたり、パソコンまたはタブレット端末等の情報機器を持参できる者。
7. 受講定員 新規受講者を30名程度とする。
8. 申込方法 本会加盟団体に事前に送付される申込み用紙にて、6月1日（火）までに申し込むこと。この期日を超えて参加希望がある場合は、個別に相談に応じる。
9. 受講料 受講料は15万円（税込）。受講開始前に納入すること。  
受講料に含まれるもの：教材費、受講に必要な宿泊及び食事。<sup>1</sup>  
受講料に含まれないもの：会場までの交通費。実習に要する実費（マナー研修の場合8,000円前後）を別途徴収する。
10. 実施方法 (1) 期 間 令和3年9月10日（金）～12月19日（日）  
①9月10～12日、②9月24～26日、③10月8～10日、④10月22～24日、  
⑤11月5～7日、⑥11月19～21日、⑦12月3～5日、⑧12月17～19日の全8週間。  
修了者を対象にフォローアップ研修を3月に開催する（予定）。  
※各週とも原則金曜は19時開始、土曜は終日、日曜は午後終了を予定。ただし別途課題や、講義に関連するグループワークが課される。

<sup>1</sup> 宿泊及び食事は NTC での実施を前提としており、その他施設を利用する場合は別途費用が発生する場合がある

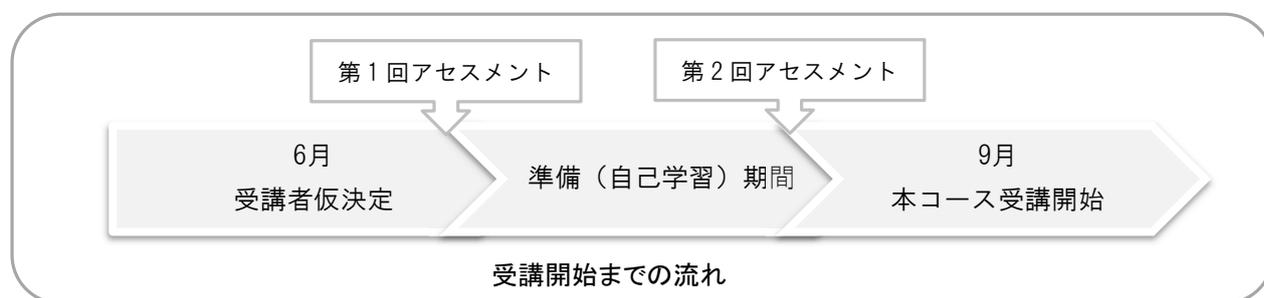
- (2) 場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター 他
- (3) 宿 泊 講習期間中は、主催者が提供する宿泊施設（味の素ナショナルトレーニングセンターもしくは国立スポーツ科学センターを予定）での宿泊を原則とする。
- (4) その他 受講開始年度内に、全課程修了することを原則とする。推薦元NFの業務等によりやむを得ず欠席する場合は、補講などの支援を受けることができる。

## 1.1. カリキュラム（予定）とその狙い

<b>[A] スポーツリーダーとして持つべき基礎知識（7コマ）</b>
スポーツリーダーに不可欠な、スポーツ／スポーツ組織に関する基礎知識 ・組織経営、マーケティング ・ジェンダーイコリティ ・SDG's
<b>[B] 国際スポーツリーダーとして持つべき知見（11コマ）</b>
国際戦略を立てる上で不可欠な、国際スポーツ／スポーツ組織に関する知見を広げる ・国際スポーツ組織 ・IF、AFにおける選挙 ・国際スポーツ分野におけるキャリア
<b>[C] グローバルマインドセット（6コマ）</b>
国際的な交流を持つ上でベースとなる、異文化や多様性を理解・受容するマインドを醸成する ・異文化理解力 ・マナー/プロトコール ・世界の宗教
<b>[D] 国際スポーツリーダーの本質的条件となる考え方や意識（16コマ）</b>
国際スポーツリーダーに必要となる思考法、意識、行動特性、スキルについてアクティブに学ぶ ・論理的思考 ・戦略的思考 ・組織行動とリーダーシップ ・提案の技術
<b>[E] 国際コミュニケーション演習（42コマ）</b>
国際スポーツの現場で必要となるコミュニケーション方法について、英語にてアクティブに学ぶ ・アサーティブコミュニケーション ・プレゼンテーション ・ネゴシエーション *基礎的な英語力を向上させるための講座は提供していない
<b>[F] アセスメント（修了試験）</b>
講義への参加姿勢、受講レポート、講義に関連する課題を評価すると共に口頭試問を実施する。Eの講義は授業全体を通して評価し、英文レポート点等を加える。それらの合計点にて修了判定を行う。

\*カリキュラム内容は予告なく変更される場合がある。

- 1.2. 準備期間 6月に暫定受講者が決定された後に語学力アセスメントを行う。基準にわずかに満たない者へは本コース開始までを英語力を高めるための準備期間とし、希望者には学習支援を行う。しかし第2回アセスメントで基準に達しない場合は、その年度での受講は認められない。



## 1.3. 受講者、受講推薦者に理解いただきたいこと

本事業は「国際的な折衝において活躍できる人材」などの育成を目指すものであるため、「英語によるプレゼンテーションや交渉」などを習得する講義を提供している。

したがって、基礎的な英語によるコミュニケーション力（簡単に意見を述べたり、説明したり、計画を話すことができる力）をすでに身に付けていることが、育成目標に対して効果的な学びを得るための前提となる。受講生の推薦にあたっては十分にご注意いただきたい。

## 14. 想定している受講対象者

NF事務局の方々にはこれまで数多く受講いただいております、引き続き活用いただきたい。

また、近年は

- ・NFの外に職業を持ちながらNFの国際業務を担当される方
- ・NFの外に職業を持ちながらNFを代表してAF、IFの理事・委員・審判を務める方や、それを目指す方

の受講も増えている。例えば企業に勤務され国際関係業務のご経験をお持ちの方にAF、IFの業務を任せる例や、選手として活躍された方に豊富な海外経験を活かしてAF、IFの業務を任せる例である。そのように幅広く人材を求め計画的に育成することで、NFの国際戦略を進めることもお勧めしており、本アカデミーをそのために活用いただきたい。

## 15. 本アカデミーのこれまでの成果と、今後目指すところ

本アカデミーは、将来JOCや競技団体を代表し、国際スポーツ界において重要な役割を果たし、そして貢献できる人材の育成を目的に平成23年度より開始され、これまでに10期を終了した。アカデミー修了の後に多くの方が国際スポーツ組織でのポジション獲得に取り組み、IFにおいては49のポジション、AFにおいては31のポジションを獲得されている<sup>2</sup>。このように、日本のスポーツ界の国際活動強化に向けて、一定の成果を上げてきたといえる。

今後は、本事業の目的が国際競技力向上のみに留まらず、国際スポーツ組織との関係強化並びに人材育成のための事業であると「JOC 将来構想」において位置づけられたことを踏まえ、国や地域の違いを超えて世界中の人々と協働できる人材の育成を目指していく。

## 16. 説明会等日程

受講申し込み以降、以下の日程で説明会、アセスメント等が予定されている

アカデミー内容説明・相談会 随時
本アカデミーの受講を検討されている希望者向けに情報提供する。ZoomやTeams等の、本会が指定するオンライン会議システムで実施する。巻末に示す問合せ先に、事前の参加予約が必要。
6月11日(金) 第1回 受講説明会 12:20～ オンラインで実施
受講希望者を対象に受講までのスケジュール、語学力アセスメントや準備期間に実施される講習、本コースを受講するための審査基準等について説明する。 *オンライン会議システムZoomにて行う。当日参加できない場合、説明会の録画を閲覧できる。
6月19日～27日 第1回 語学力アセスメント オンラインでの受検
語学力のアセスメントを実施し、受講者を具体的に評価する
7月～8月 準備コース
第1回語学力アセスメントの結果に基づき、語学力向上のための勉強法についての情報提供を、必要に応じて実施する。
7～8月 第2回 語学力アセスメント
評価者がオンラインにてアセスメントを実施し、本コースの受講可否を判断する
8月20日(金) 第2回 受講説明会 19:00～ 会場未定
受講決定者へ教材を配布し、受講に際しての注意点を説明する

以上

本件に関する問い合わせ先

(公財) 日本オリンピック委員会 国際部 担当 相馬

Tel: 03-6910-5956 Email: h-soma@joc.or.jp

<sup>2</sup> ポジション獲得数は令和3年2月現在の集計結果

## カリキュラムの例(令和2年度)

カテゴリー		コマ数	科目名		
大分類	小分類	コマ数		科目名	
A	スポーツリーダーとして 持つべき基礎知識	マーケティング	1	A1	競技普及に繋がるNFマーケティングの考え方
		ジェンダー	1	A2	女性スポーツの現状とジェンダーイクオリティ
		オリンピズム	1	A3	オリンピックにおけるスポーツの価値
		コミュニケーション	1	A4	意思の疎通
		国際協力	1	A5	JICAの国際協力の意義とスポーツ
		国際協力	1	A6	スポーツからの社会課題解決
		国際協力	1	A7	アフターコロナに必要なスポーツ業界のイノベーションマネジメント
B	国際スポーツリーダーとして 持つべき知見	国際スポーツ組織	1	B1	スポーツメーカーとNF,NOC他のマーケティング
		国際スポーツ組織	1	B2	NFの国際戦略
		国際スポーツ組織	1	B3	IF事務局派遣の体験談
		国際スポーツ組織	1	B4	IFとその諸活動
		国際スポーツ組織	1	B5	IOCと一緒に働くということ
		国際スポーツ組織	1	B6	東京2020組織委員会の準備状況
		国際スポーツ組織	1	B7	国際機関で必要な人材とは
		国際スポーツ組織	1	B8	“International Ski Federation” × “World Triathlon” Management Seminar
		国際マーケティング	1	B9	アジアのスポーツビジネス
		国際紛争解決	1	B10	国際スポーツ戦略とスポーツ外交
		スポーツ外交	1	B11	国際スポーツ組織の決定、処分とスポーツ仲裁
C	グローバルマインドセット	マナー	1	C1	マナー・プロトコル概論
		異文化理解	2	C2	異文化理解力～オリンピック競技の事例を通じて学ぶ～
		宗教	2	C3	世界の宗教概論
		日本文化	1	C4	日本文化と武道
D	国際人材の本質的条件となる 考え方、意識	思考力	5	D1	論理的思考(言語技術)
		思考力	3	D2	戦略的思考～オリンピック競技の事例を通じて学ぶ～
		思考力	2	D3	バリュープロポジション(価値ある提案の技術)
		リーダーシップ	2	D4	リーダーシップ行動とコミュニケーションタイプ
		リーダーシップ	2	D5	組織を動かす力
		コミュニケーション	2	D6	国際的な場で信頼関係を築くインターパーソナルスキル
E	国際コミュニケーション 演習	Assertive Communication (AC)	14	E1	基礎演習
					IF/AF委員会会議シミュレーション
					IF/AFテレカンファレンス実習
					応用演習
		Public Speaking (PS)	8	E2	基礎演習
					IF/AFプレゼンテーション
		Negotiation (NG)	8	E3	基礎演習
					応用演習
Final Project (FP)	13	E4	チームプロジェクト(事前準備)		
			チームプロジェクト(発表)		